

第3学年B組 社会科授業案

場 所
授業者

3 B 教室
志賀 充規

1 単 元 世界に羽ばたくMRJ（社会を創る）

2 単元の構想

（1）本単元で目ざす子どもの姿

子どもは、国産ジェット旅客機MRJが飛行試験も終わっていない現在において、400機も受注があることに違和感を感じ、国産旅客機の生産の経緯や現状について追究する。MRJに使われる部品の70%が海外製であることを知り、国産旅客機を生産する意義について取材し始める。そして、日本の目ざす航空機産業の未来の姿に迫り、未来の日本に生きる自分の関わり方を考えていく

（2）本単元で伸ばしたい力

前単元「東京オリンピックが日本にもたらすもの」では、2020年の東京オリンピックを事例に、オリンピックの開催に向けて進められているインフラの整備や新たな技術やサービスの現状を捉え、集めたさまざまな情報を意見交流する中で、解決すべき問題を見いだす力を育んだ。

本単元では、国産旅客機MRJについて追究する。国産旅客機の開発や経緯に関わる複数の情報を吟味する中で、解決すべき問題を見いだす力を育む。また、性能の高さなどの長所がある反面、旅客機開発の後進国としてのリスクがあることについて専門家や企業への取材をとおして迫っていく中で、集めた情報のもつ意味を捉える力を育む。さらに、取材をもとに考察することで、事実を正確に捉え、公正に判断する力を育む。旅客機開発をとおして考える日本の航空機産業の将来性についての意見交流では、事前に互いの追究内容や思いや考えを把握するようにすることで、意見交流で仲間とどのように関わるかという意見の関わりを想定する力を育んでいく。

（3）はたらきかけと「学んだこと」を行動につなげる子どもの姿

見つめる段階では、約50年ぶりに生産される国産旅客機MRJについて考える。MRJに関する新聞記事や動画などを提示し、MRJが生産されようとしていることや、400機の受注があることを知る。そこで、試験飛行が延期となり、まだ一度も飛んでいないものの、400機の受注があることに対し違和感を感じる。子どもは、MRJとはどのような飛行機なのか知りたいと考え、追究を始める。

向き合う段階では、MRJの性能や経緯、世界の航空機産業の現状について追究していく。具体的な事実を明らかにしたところで意見交流を行う。そこでは、国産旅客機を生産するという目的があるにもかかわらず、海外の部品を70%も使用していることから、MRJを国産と呼ぶことに疑問を感じている子どもの考えを取り上げる。そこから、国産旅客機を生産に取り組む意義は何かという問題について考え始める。そして、国産旅客機生産に携わる人の営みや願いからその意義を明らかにしたいと考え、企業、専門家、官公庁などに取材をし始める。

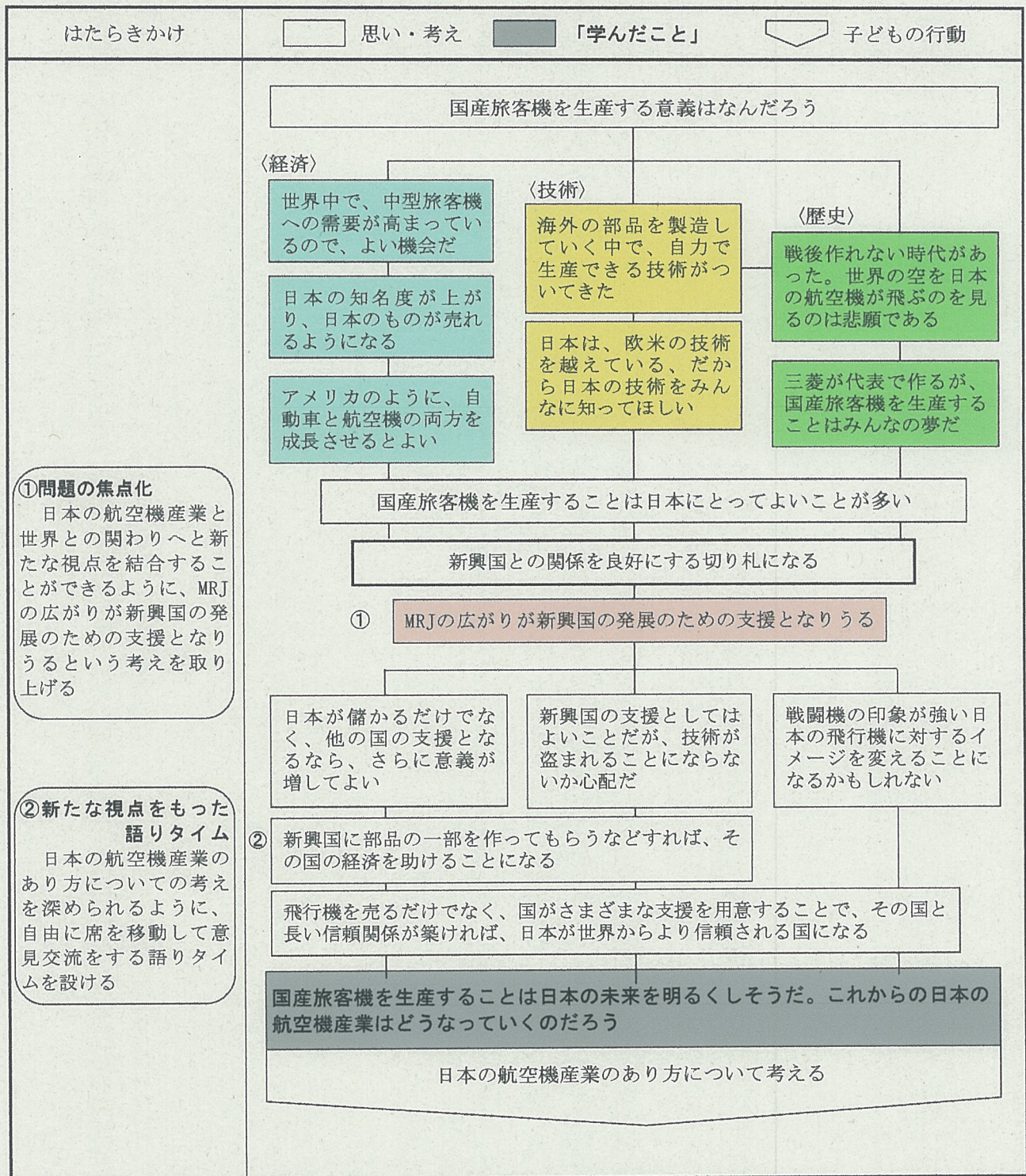
迫る段階では、国産旅客機を生産したいという関係者の願い、世界的な航空機需要の広がりや国が今後の産業として期待していることなど、MRJを生産するにはよい状況が整っていることなどを捉える。子どもは、それらを意見交流の中で関わらせることで、MRJが日本の未来の産業に変化を与えるという期待の大きさについて実感する。そして、MRJの生産をとおして、日本の航空機産業の将来性について見いだしたいと考え、航空機産業のよりよいあり方を考え始める。

つなげる段階では、日本の未来を支える産業の存在を捉えた子どもに、新しい産業から見える自分のあり方を考える時間を設ける。これまでの追究や取材、意見交流をもとに、新しい産業によってもたらされる日本の姿を捉えた子どもは、自分が担うことになるこれからの産業の姿を思い描き、自分にできることや社会とのつながりを考え続けていく。

4 本時の構想 (10/13)

国産旅客機MRJの部品の70%が海外製であることを知った子どもは、MRJが国産と呼んでよいものかについて意見交流をした。そして、国産旅客機を生産する意義について、関連企業や経済産業省、航空機の専門家に取材を行ってきた。

本時では、まず経済に対する影響についての考えが出される。国産旅客機を生産することで、関連する中小企業にとって安定した利益をもたらし、日本の産業に良い影響があることが明らかになる。そして、歴史について追究した子の意見をつなげることで、MRJが日本の夢と悲願であることが見えてくるだろう。さらに、日本の高い技術力を発信でき、将来的には自動車産業に次ぐ産業としたいという国の狙いを捉える。その中で、新興国への販売だけでなく、MRJの広がり在新興国の発展のための支援になりうるとする子どもの意見を取り上げる。そして、日本の航空機産業と世界との関わりへと視点を結合し、問題を焦点化する。子どもは、MRJによってもたらされる日本の未来の姿を明らかにしたいと考え、これからの日本の航空機産業のあり方について考え始める。



5 単元構想表 (13時間完了)

| 段階 | 主なはたらきかけ | <input type="checkbox"/> 思い・考え <input checked="" type="checkbox"/> 「学んだこと」 <input type="checkbox"/> 子どもの行動 | 社会科で重視する力 |
|-------|--|--|---|
| 見つけめる | <p>○知的好奇心の喚起 MRJへの関心を高めるように、MRJを紹介する新聞記事や紹介動画などを提示する</p> | <p>日本でも飛行機を作り始めているようだ 飛行機を作るには長い時間と高い費用がかかる</p> <hr/> <p>一度も飛んでないのに400機も売れる旅客機がある 1時</p> <p>日本の技術が信頼されているのだろう 日本製には安全というイメージがある 需要があるから売れるのだろう</p> <hr/> <p>MRJが400機も受注があるのは、日本のイメージによる影響が強そうだ。MRJはどんな特色のある飛行機なのだろうか</p> <p>MRJの性能や現状について調べる 2～5時</p> <p>新型エンジンの採用で燃費が20%も向上している たくさんの部品会社が協力し、愛知で生産される ライバルとの競争の中で過去の実績がないのが心配だ</p> <p>環境面でやさしく、今の時代に求められている飛行機だ 部品の70%が海外製であるのに、国産と呼んでよいのか ライバルが世界有数の企業なので、入り込むことは大変だ</p> <hr/> <p>MRJの開発に対する国や企業の期待は大きいが停滞している。日本が国産旅客機を生産することの意義はなんだろう</p> <p>専門家や関連企業、官公庁へ取材する 6～10時(本時10)</p> | <p>☆情報をつなぎ合わせ、問題を見いだす力 ・MRJについてさまざまな情報を吟味する中で、自分たちが解決すべき問題を見いだす。</p> <p>☆情報のもつ意味を捉える力 ・MRJの生産についての資料や情報収集を通して得た事実や知識から、仲間の考えと自分の考えの相違点や類似点を把握する</p> |
| 迫る | <p>○切実な思いを高める 航空機産業に関わる人々の営みや願いに迫ることができるように、関連している企業や専門家への取材活動をうながす</p> | <p>世界中で中型機への需要が高まっているので、よい機会だ たくさんの部品があるので、多くの企業に利益が出る 戦後作れない時代があった。国産旅客機は日本の悲願だ</p> <p>新しい市場を開拓することができ、国内では雇用も増える 販売と同時にその国へのさまざまな支援をすることができる 国も協力して、航空機産業のトップを目指し始めた</p> <hr/> <p>国産旅客機を生産することは日本の未来を明るくしそうだ。これからの日本の航空機産業はどうなっていくのだろうか</p> <p>日本の航空機産業のあり方について考える 11～13時</p> <p>高速の輸送機など、さらに高い技術を生かした航空機を作る 世界の国々への支援を兼ねて、世界中の部品を使う 航空機生産のノウハウを生かし、医療などの産業も発展する</p> <hr/> <p>MRJをとおり、未来の日本を支え得る産業の存在が見えてきた。新しい産業と自分の未来との関わりについて考えていきたい</p> <p>これからの産業の姿を思い描き、社会との関わりをもととする</p> | <p>☆事実を正確に捉え公正に判断する力 ・さまざまな産業に関わる情報や企業やに取材して得た情報を多面的・多角的に考察し、集めた情報の真意を見極めて事象を正確に捉える</p> |
| つなげる | <p>○単元の振り返り 社会や自分を見つめ直すことができるように、単元まとめや授業日記を書く時間を設ける</p> | <p>この先の日本の姿を、社会のさまざまな側面から考え続ける</p> <p>理想的な日本社会を未来へつなぐため、自分にできることを考える</p> | <p>☆意見の関わりを想定する力 ・追究のまとめをとおして、事前に仲間の追究内容を知る中で、意見交流において仲間とどのように関わり、自分の考えを深めていこうかと想定する</p> |